

永農通巻第46号

平成22年3月1日発行

旭川農業高等学校
同窓会 機関誌

永農・旭農同窓生の集い

「旭農」発刊に当たって

第八代同窓会 会長
福島 堅一 (35 Ab)

旭農同窓生の皆様には、厳しい社会情勢の中ではありますが、今年こそ、何とか明るい光が見える年を期待して新しい年を迎えられたと思います。

今年の総会に於いて、多くの事業、支部活動を展開する中、21年度総括と22年度に向けての計画、予算が可決され、黄木前会長の辞任にともない、新会長に就任させていただきました。浅学非才の身ではありますが、御

指導のもと務めさせていただきます。よろしくお願い致します。

事業計画では、同窓会組織を充実発展させ母校の教育振興にいかにより協力出来るか、そしてこれから巣立つ子供達が希望と夢をもって社会に出て旭農教育の中で蓄えた力を十分に発揮し、活躍出来る社会環境をつくるのが大きな課題であります。

今の社会情勢は歴史上稀に見る厳しさであり、若い人達

には苦難が待ちうけて居ると思いますが一層の努力を望むところであります。

農業情勢も、政権交代で目まぐるしく変化している中で、後継者の育成、農業の構造改革等が進められていますが、農業者が安定した施策の中で長期安定した、計画が立つ様な農政であることを望むところであります。

現在の社会が求めていることは、若い人達が、農業にかぎらず、職業に対する、しつかりとした、意識をもつこととあります。

この点、旭農高の農業全般に渡る教育と、実践的技術を

旭農高のチャレンジ

第二十四代 校長
小川 龍幸

永農・旭農同窓生の皆様には母校の教育活動に対し、日頃よりご支援・ご協力を賜りまして心よりお礼申し上げます。

私は平成21年4月1日をもって、道東の標茶高校より赴任して参りました。本校は大正12年、当時高知県立農林学校長でおられた寺尾熊三先生を初代校長にお迎えし、開校いたしました。開校、87年間1万3千余名の卒業生を輩出している伝統校であります。本校における職責の大きさをひしひしと感じております。

身につける農業クラブ活動は、重要な意義があると思います。「旭農校教育振興会」を核に、JA組合長、各市町村会の力強い協力、支援のもと地域社会に密着した充実を願うものであります。

本同窓会の活動は、全国に広がる支部組織の活動が基礎になっていきます。各地の実情に応じた連絡網を密にして、本部との連携のもと発展を願うものであります。

今後旭農高が伝統と成果実績がより大きなものになる様、校長先生、各教職員の皆様の御尽力を心よりお願い申し上げます。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

農業科、林業科の2学科で開校した本校も、時代の変遷による学科改編等により現在は、農業科学科、食品科学科、森林科学科、生活科学科の1学年160名4学科体制となっております。この学科編成の特徴といたしまして、農業科学科や森林科学科が学校で生産した農産物を食品科学科で加工して付加価値を付けて、生活科学科の生徒が主となり販売・流通させるという「フードシステム」という原材料

生産から販売までの一環教育を取り入れようとしたものです。「北海道にはすばらしい資源はあるが、それを本州で利用されて販売されているだけである」との指摘のなかで、北海道のブランド力、販売力が問われております。そのことに対応できる農業高校の教育の充実を目指したものです。

現在、本校では農産、乳、肉製品等多様な農産加工品の製品化を実現しており、定期販売会等で地域住民に好評をいただいております。今後さらに新たな地域素材を利用した製品開発に向けて、4学科を挙げてさらなるチャレンジに邁進するところでございます。

また、毎年の同窓会の支援による「教育振興基金」、まことに有り難うございます。今年度は生徒の公募による4名の沖縄研修旅行にも使用させていただきました。貴重な基金でございますので、将来同窓生の一員となる生徒の資質向上・視野拡大・国際性の涵養等、生徒の学習の場の拡大のためにも使用させていただきます。どうかよろしくお願いいたします。

22年度は中国での農高交流・文化施設研修を予定いたしております。

結びに、生徒が母校に誇りを持ち母校を自慢できる学校づくりに教職員一致協力して努めて参る所存でございます。今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成22年 旭農同窓会総会報告



幹事長

山川 勝 (38Ab)

同窓会総会が1月29日に旭川ロワジールホテルを会場に全国48支部から49名の支部長及び代議員の出席をいただき開催されました。

黄木校同窓会会長から、旭川農業高等学校が大正12年に開校されて以来の歴史が12、000名余りの会員を要する同窓会となった。現在は4学科478名が在学し、その約62%が女子生徒と様変わりしてきているが、吹奏楽部、農業クラブ実績発表など、母校の活躍は喜ばしいことである。

今年度は、同窓会名簿作成の年で、会員に協力をいただきより精度の高い名簿を完成させたい。また、名簿には法人会員、個人会員の賛助広告を募集していますので協力をお願いいたします。母校の22年度の入学応募率が1・6倍になったことなどお話がありました。

に対する関心が高まってきた表れと挨拶を頂きました。

総会議長に当麻支部長の住田典路氏を選出して議事にはいりました。

・第1号・第2号議案 平成21年度事業経過報告、会計決算報告・監査報告が提案どおり承認される。

・第3号・第4号議案 平成22年度事業計画案、会計予算案について提案説明後、全員の承認を頂きました。

さらに、同窓会教育振興基金の運用については、国債のほか、今もっている札幌市公債、アジア開発銀行債を整理し、国債への1本化を図っていくことについて役員会に一任することを承認いただきました。

・第5号議案 平成22年度同窓生の集いの当番期の確認と実行委員長に48期農業科卒の松原朗氏(A48年卒)を実行委員長に取り組み頂くことが確認されました。

・第6号議案 会長職の補欠選任について

黄木会長から、体調の不調による役員会への辞職の申し出があり、再三保留を求めましたが、本人の辞職への意志が強く、第4回役員会で黄木会長の辞職を受け入れる判断をしました。

その後、役員選考委員会を開催し、選考委員長に増茂勲(F28年卒)旭川東支部長を選任し、委員会が協議の結果、会長に福島堅一常任理事(A35年卒)を選出、総会で選考委員会での結果を発表し満場一致で承認されました。

旭農近況報告



教頭 大関俊郎

・第7号議案 その他では、退任された黄木会長を顧問への推挙を行い承認して議事を終了しました。

住田議長から、1年間の方針が決定され新しい福島会長のもと、同窓会運営をお願いしたい旨の退任挨拶があり閉会しました。

今回で退任された、黄木校長には永年の貢献に対し感謝状が福島新会長から贈られ、新旧会長の挨拶をいただき終了しました。

同窓会会員の方々には、日頃より本校生徒の進路のアドバイスや実習等の受け入れ、学校行事へのご協力など、物心両面に渡るお力添えをいただいておりますことに、感謝申し上げます。

同窓会機関誌の発行にあたり、生徒の状況等を紹介させていただきます。



日本学校農業クラブ北海道連盟 第61回全道実績発表大会

学 科 名	1 年 生			2 年 生			3 年 生		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
農業科学科	22	17	39	22	20	42	25	15	40
食品科学科	8	33	41	8	33	41	8	31	39
森林科学科	31	9	40	28	9	37	28	10	38
生活科学科	0	41	41	0	40	40	2	38	40
合 計	61	100	161	58	102	160	63	94	157

1 全校生徒数
(平成21年12月25日現在)

年 度	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21
就 職	78	74	60	68	48
進 学	75	82	84	78	81
即 自 営	0	0	0	1	1
自営予定	(7)	(0)	(0)	(5)	(0)
卒 業 生	153	156	158	152	157

3 進路動向
(平成22年1月30日現在)

市町村	生徒数	%	市町村	生徒数	%
旭 川 市	392	82.0	美 瑛 町	15	3.1
東 川 町	7	1.5	士 別 市	1	0.2
東神楽町	1	0.2	比 布 町	5	1.0
上 川 町	2	0.4	和 寒 町	5	1.0
当 麻 町	32	6.7	そ の 他	2	0.6
愛 別 町	11	2.3			
鷹 栖 町	5	1.0	合 計	478	100.0

2 出身市町村別生徒数
(平成21年12月25日現在)

全校生徒は、478名(男子38%、女子62%)、出身市町村別に見てみると旭川市の生徒が非常に多く、全体の82%の割合になっています。

4 部活動

○野球部・排球部・籠球部・羽球部・蹴球部・陸上部・庭球部・柔道部・レスリング部・卓球同好会・スキー部

○図書局・新聞局・放送局・演劇部・書道部・美術部・写真部・家政部・吹奏楽部

5 農業クラブ関係
○全国大会(茨城県・10月7日・8日)

優秀賞・農業鑑定、食品科学コース、園芸コース
家畜審査競技(肉牛の部)

○日本学校農業クラブ北海道連盟結成60周年、北海道学校農業クラブOB会結成30周年記念、全道実績発表大会及び記念式典(平成22年2月4、5日)会場・本校

食料・生産区分、クラブ活動で最優秀賞を獲得し、平成22年10月5日から岩見沢市を中心に開催される全国大会(北海道大会)への出場権を獲得しました。



支部だより

永山西支部だより



旭農同窓会 永山西支部

高橋

徹 (53 F)

永山西支部の活動には積極的に関わりが持つことができて、千葉支部長には大変ご迷惑をお掛けしております。

私は、母校を卒業してその年に国鉄・旭川鉄道管理局に入社して深川保線区に配属になりました。林業科時代に、年1回天幕演習林の実習で体験した作業や自炊の集団生活は農業高校特有の事であり、社会に出てからも仕事や人と接する上で貴重な経験となっています。

現在は、ささき隆博衆議院議員（北海道第6区）の秘書

旭川東支部だより



旭農同窓会 旭川東支部長

増茂

勲 (28 Fa)

平成22年2月13日午後6時から旭川東地区体育センターで、支部総会を開催し、長瀬同窓会副会長、事務局から川口先生の出席をいただき、会員26名の出席で盛会に行うことが出来ました。

総会終了後は懇親会に移り、同じ地域に住む者同志、アルコールと共に話に花が咲き、約2時間があったという間に過

をしております。昨年行われました衆議院総選挙では多くの皆様のご支援を頂き、心から御礼申し上げます。今、代議士の秘書として多くの市民の方と接する機会を与えられておりますので、このことを活かすためにも、いずれは政治的な分野で皆様のお力になれるように日々努力をしております。

終わりになりますが、同窓生各位の益々のご活躍とご健勝を心からご祈念申し上げます。

末広支部だより

旭農同窓会 末広支部長

辻

茂 (28 Aa)

末広支部の設立は、旭川農業高等学校同窓会会則第5条による「支部組織の育成強化、適正配置についての分割、統合に関する事」の条項に基づくものであります。

本部の要請もあり、東鷹栖支部を分割し平成19年2月に設立したもので、48支部のうち、最も新しい支部として同窓会活動に仲間入りをさせていただきました。先輩各位のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

末広地区は旧東鷹栖町が昭和46年に旭川市との合併を期に、急速に人口が増加し現在は人口3万人とも言われている地域であります。

末広地域の旭農同窓生の殆んどは、母校の同窓会支部が地域ごとに存在することを知らずに居りましたが、設立か

新規会員を増やすべく、同窓会名簿から昭和30年代及び40年代の卒業生全員に、同窓会機関誌「旭農」を同封し、文書によるお誘いを行いました。

結果17名の方の加入の返事をいただきました。これからも皆さんのご協力を得て、支部会員の増加に努めて参りたいと思っております。

札幌支部だより



旭農同窓会 札幌支部

伊林

好 (44 Ab)

札幌支部最大の行事は、毎年3月に開催する総会と懇親

会です。今年も来賓、恩師の出席を

十勝支部だより



旭農同窓会 十勝支部長

酒井

末治 (32 F)

私は定年退職後、平成20年9月までの約10年間、非常勤で務め、この間支部同窓会の行事には大半欠席でした。今、離職後は出席していますので、平成21年度行事、感じた事についてお伝えします。先は、支部通常総会が4月18日帯広市内の食堂で開催、11名出席のもと、前年度の事業及び会計決算報告、本年度の事業計画及び予算案を審議し役員改選を行ない、引続き懇親会に移り親睦を深めました。次は

7月11日帯広市内のボーリング場で親睦ボーリング大会開催、6名の参加で親睦を深めました。また9月5日帯広市内の居酒屋でビールパーティを開催、8名の参加で親睦を深めました。しかしどの行事も以前に比し参加者の減少を実感しました。当支部は以前から、この課題について取り組みを進めておりますが、今後も継続して取り組み、支部発展に努めて参りたいと考えています。

日高支部だより



旭農同窓会 日高支部長

柏崎

雅 (25 Ab)

永農から旭農への校名変更は昭和36年4月、永山町が旭川市に合併した事によるもの

で、永農時代が39年、旭農時代49年と旭農の卒業期が多くなり名実共に旭農時代、永農

いただいて3月12日(金)KKR札幌に於いて活動報告、事業計画等の審議、承認を行い、懇親会では毎年恒例となりました全員くじ引き合戦が最大のイベントで盛り上がりです。ちなみに賞品は能登水産様の「ご配慮をいただき毛ガニ、ウニ、スジコと高級海産物を原価で提供いただいております。」

援団の一人であります。支部会員は約600名近く登録されていますが、年々出席率が減少し、出席率の向上に向けて声掛け運動等多数の方が出席されることを願ひ、現在総会に向け総合案内の発送と会誌の作成と着々と準備を進めています。本年の総会が盛会となることを祈念し支部活動報告とします。



は遠くなっています。我々は敗戦の翌春、庁立永山農業学校に入学し、道立永山農業高等学校を卒業した者にとって旭農という校名には異和感があり同期会でも永農の卒業生だという意識で行動して居りそれは当然の事だと考えま

苦小牧支部だより



旭農同窓会 苦小牧支部長
笠木 庄一 (27 Fa)

苦小牧支部は、胆振支庁管内に存在する同窓生で構成され、現在登録会員75名です。支部の設立は52年前、昭和33年1月です。昨年9月生みの親で顧問であった野村孝一(14 F)さんが亡くなり会として良き相談役を失ったこと

東京支部だより



旭農同窓会 東京支部
館小路 哲矢 (40 Aa)

当支部の会員は主には関東に居住されていますが本州全域におります。

10年程前は会員名簿には400名程登録されておりましたが、その後お仕事で転勤されて転居先が不明となった方が多くあり、高齢のため又は個人的事情で登録を辞退されたりと会員の減少が続いております。

更には平成になってから新卒で本州に就職する人が皆無

す。ところで毎年「永農・旭農同窓生の集い」に参加して居りますが我々25年卒業生は農林科で10名が常連でしたが昨年から参加者が5、6名に半減、矢張り喜寿を過ぎると暇はあっても健康上の理由などが原因するものと考えられ

は大変淋しい限りです。そもそも支部の生い立ちは植山四郎(7 F)さん、菊地芳男(13 F)さん、田中正臣(22 A)さんの大先輩が發起人となって創設されたわけですから野村さんが最後の生き字引でありました。

となりこの20年程新会員がないという残念な事態になっております。

そのような状況のなかで昨年度も10月17日に「東京支部の総会と卒業生の集い」を行いました。遠路ご多忙の中、黄木同窓会会長、小川学校長にもご出席戴き感謝申し上げます。当日は全員で23名の参加でしたが少ないながらもそれぞれ思い出し話が弾み青春を思い出し和やかなひと時

を過ごしました。



現在の会員の中には今後定年(60歳)を迎える方が相当数おりますので、時間に余裕ができたならば支部会にも参加して戴けるように働きかけを行きたいと思っております。

母校と苦小牧市の関係は、王子製紙会社とその関連企業に昭和27年以来毎年1、2名の同窓生が就職してきたからです。残念ながらここ18年間程途切れてしまったようです。当支部の活動は、同窓会機関誌配布に併せて総会開催の案内状を郵送、総会開催、親睦目的のゴルフ及びパークゴルフ大会を企画実施しています。しかし参加者の少ないことが最大の悩みです。

ます。今年是我々の先輩の卒業期の参加は8名であったが、あと数年後には我々の卒業期が最古参の卒業生となる日が訪れ、同期の元気な姿が何名参加できるだろうか、お互い元気で同窓生の集いに参加したいものです。

編集後記

旭川農業高等学校同窓会機関誌「旭農」(永農通巻第46号)をお届け致します。編集に際し原稿の執筆、資料、写真等をご提供いただきました同窓会諸氏、支部長、現職員の方々に深く感謝申し上げます。機関誌「旭農」は同窓生皆さんの「絆」であり「広場」でもあります。更に伝統ある旭農会の歩みを刻み、歴史の一頁にしたいと思います。

同窓生各位のご健康とご多幸を母校よりお祈り申し上げます。

逝去された会員の皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。(文責 事務局)

平成23年

永農・旭農同窓生の集い

会員多数ご参加ください

日 時／1月29日(土)

場 所／ロワジュールホテル旭川
旭川市7条6丁目

実行委員長／松原 朗(48Ab)

永農・旭農同窓会本部役員・幹事

会 長	福島 堅一(35Ab)	事務局 長	荒井 泰史(63Aa)
副 会 長	三宅 愛子(35H)	事務局次長	高倉 忠(44Ab)
〃	長勢 孝志(40Aa)	〃	佐藤 広人(52Ab)
〃	上野 裕幸(41Ab)	〃	伊藤 利浩(63 F)
常 任 理 事	高嶋 守(35 F)	〃	伊藤 吉則(55H)
〃	菅野 孝夫(44Aa)	〃	齊藤 浩義(58Aa)
〃	千葉かよ子(50 L)	〃	野田 嘉明(61 F)
監 事	牧野 勝頼(39Ab)	〃	石川 渉(54Ab)
〃	星 秀隆(47H)	〃	川口 雅史(平13F)
幹 事 長	山川 勝(38Ab)	〃	堂端 康二(平14H)
		学 校 長	小川 龍幸

〈事務局〉旭川市永山町14丁目153 母校内 ㊟(0166)48-2887・1320 ㊟48-1360